

症していますが、ひとたび発症すると100%死に至ると言われ、有効な治療法がありません。

こうしたなかで、私たちはプリオン病の早期発見、感染予防のためのプリオン検出法に加え、プリオン病の治療薬を開発しようと研究を続けています。プリオン病にプリオンたんぱくの異常が密接に関与することに着目して、岐阜大学と共同で治療薬の開発を進め、すでに新しい化合物を発見しています。これが治療薬として効果があるかについての研究も進めています。わが国のプリ

オン基礎研究の草分けとして、厚生労働省の「プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究」や農林水産省の「培養細胞等を用いたプリオンの変換増殖機構の解明及び異常プリオン蛋白蓄積による病態の解析」などの国家プロジェクトにも参加してきました。これからも愚直に研究を積み重ねていきます。

次号(2016年11月号)では「熱帯医学研究所ウイルス学分野」を取り上げます。

新興・再興感染症

黄熱

黄疸や出血が主な症状のウイルス感染症 昨年末からアフリカ・アンゴラ周辺で大流行

黄熱は、黄熱ウイルスが引き起こす感染症で、アフリカのサハラ砂漠以南や南米大陸の熱帯地域で見られます。WHO(世界保健機関)によると、年間8万4000~17万人の患者が発生し、最大で6万人が死亡していると推計されていますが、正確な患者数は把握できていません。2015年12月から、アンゴラを中心にアフリカでの発生が多数報告されており、厚生労働省では、感染の恐れのある地域に入国する場合は予防接種を推奨しています。

黄熱ウイルスはネッタイシマカが媒介します。ウイルスを持つ蚊に刺されてから発症するまでの潜伏期間は3~6日間です。多くの場合は軽症ですが、約15%が重症化し、そのうち20~50%の患者が死亡するといわれています。発症すると重症になるリスクの高い感染症です。

黄熱に感染すると、まず突然の悪寒と高熱が現れ、続いて、頭痛、嘔吐、筋肉痛、出血(鼻出血、黒色の嘔吐物、下血、子宮出血など)、たんぱく尿などの症状が出ます。この症状は1~3日で回復します。ところが重症化すると、一時的に症状が軽くなったり消えたりしたあとほぼ1日以内に再び高熱となります。肝臓や腎臓などの臓器がウイルスに感染し、

黄疸(皮膚や目が黄色くなること)が現れます。これが「黄熱」の由来です。この状態に至ると、患者の半数が7~10日以内に死亡するといわれます。

黄熱には効果のある治療薬はいまだになく、対症療法が頼りです。発症してすぐに解熱薬の投与や輸液などによる水・電解質のバランスの補正など適切な治療を行えば生存率は向上します。

一方で、黄熱には、副作用が少なく安全性の高い有効なワクチンがあります。従って、黄熱が流行している地域に入国する場合は、ワクチンによる予防が最も効果的です。ワクチン接種による免疫効果はほぼ一生持続すると考えられていますが、生ワクチンのため、卵アレルギーの人には接種できません。また、生後9カ月未満の乳児も接種は控えましょう。妊婦さんも、胎児への影響が不明であるため注意が必要です。

黄熱の流行地域への旅行を検討されている方は、まず近くの検疫所にご相談ください。

次号(2016年11月号)では「ニパウイルス」を取り上げます。